研究開発プラットフォーム
情報入力マニュアル

作成日：2026年10月8日

目次

00	フォームの基本説明	3～10ページ
01	管理画面へのログイン方法	11～14ページ
02	プラットフォーム情報の入力項目	15～43ページ
03	公開前の確認・送信	44～45ページ
04	その他	46～51ページ
	① サイドバーの項目について	46～48ページ
	② 補足説明（TRL,市場規模）	49～51ページ

00

フォームの基本説明

マニュアルの対象と入力の流れ

主な対象者：
研究開発プラットフォーム情報登録フォームへ入力するプロデューサー、管理運営機関の担当者
プロデューサーまたは管理担当者のうち代表者1名がご入力ください。

01
ログイン
登録ページからログインし、入力フォームへ
P.11-14

02
フォーム入力
プラットフォームの基本情報を入力
P.15-43

03
確認・送信
入力内容を確認し、フォームを送信
P.44-45

ログイン → **入力** → **確認・送信**

この資料では、ログインから送信までの手順を、フォームの入力順に説明します。

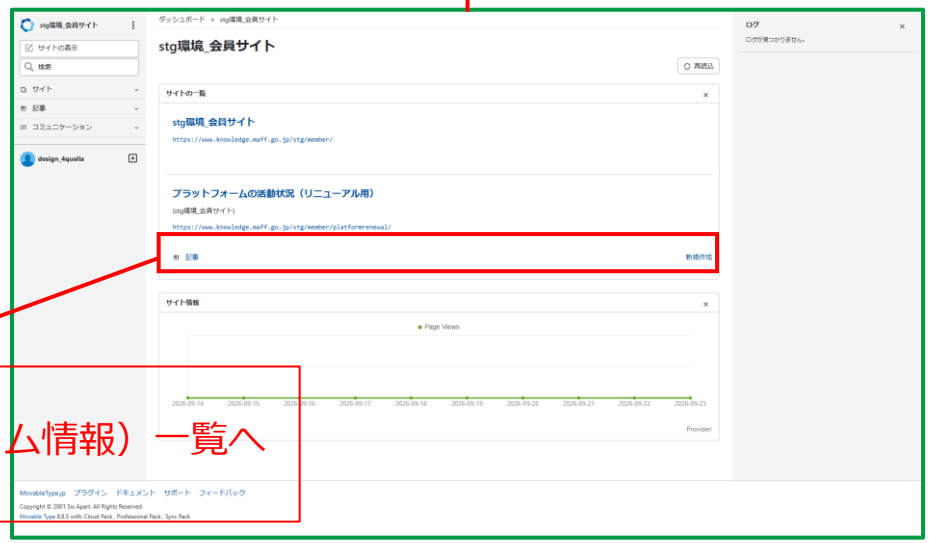
入力途中で迷ったときは、各スライドの「記入例・注意点」を確認してください。

ログイン後の画面説明

ログインをすると下記の画面が表示されます。

■管理画面｜ダッシュボード

■管理画面｜サイトトップ



■ショートカットメニュー
こちらから記事（プラットフォーム情報）一覧へ
遷移可能です

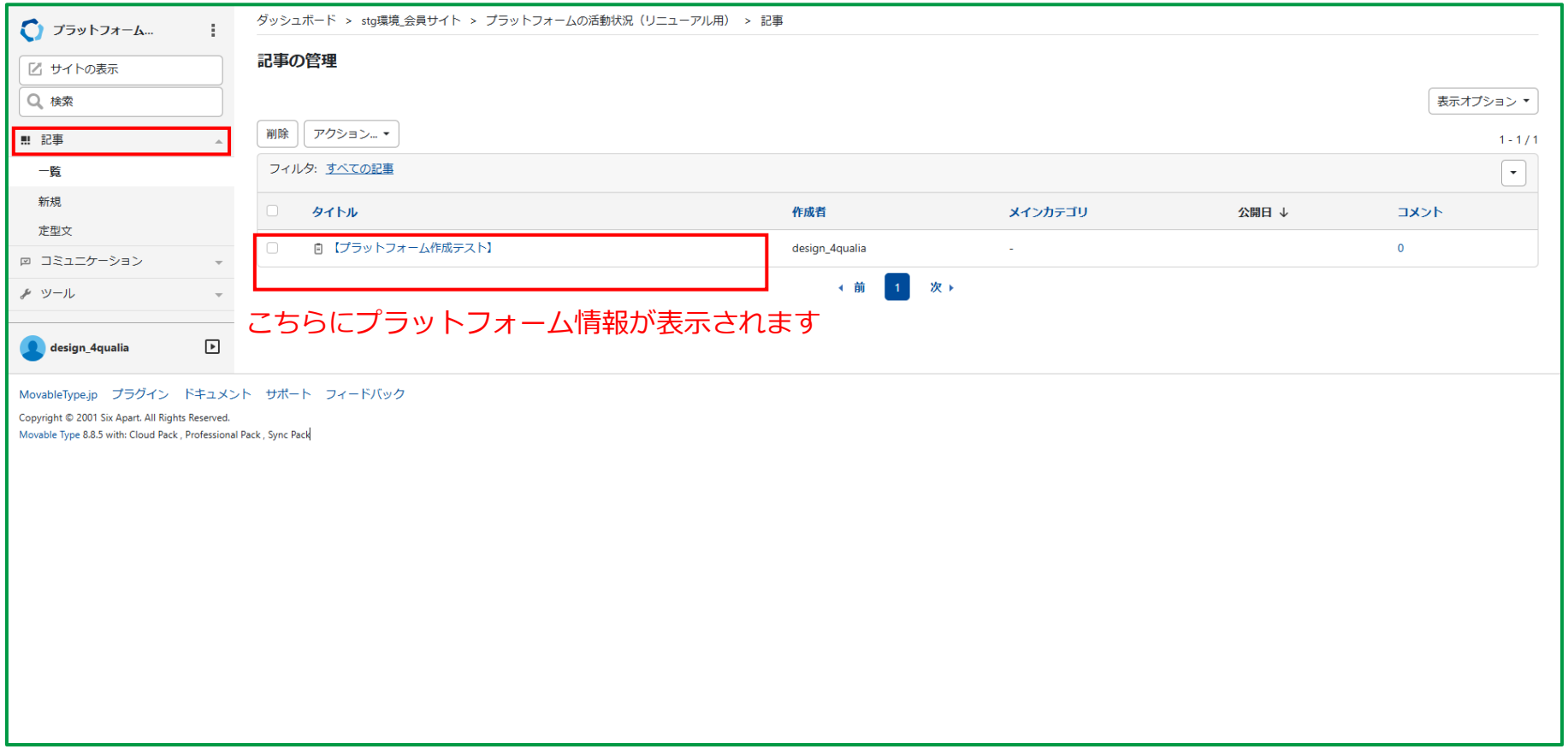
■管理画面｜ページトップ

■ナビゲーション
編集可能なサイト・ページが表示されており、
押下するとサイトやページの操作メニューが表示されます。

ログイン後の画面説明

「記事」を押下すると記事の管理ページへ遷移し、記事一覧が表示されます。
ご入力いただくプラットフォーム情報が表示されておりますので、押下いただくと編集画面へ遷移します。

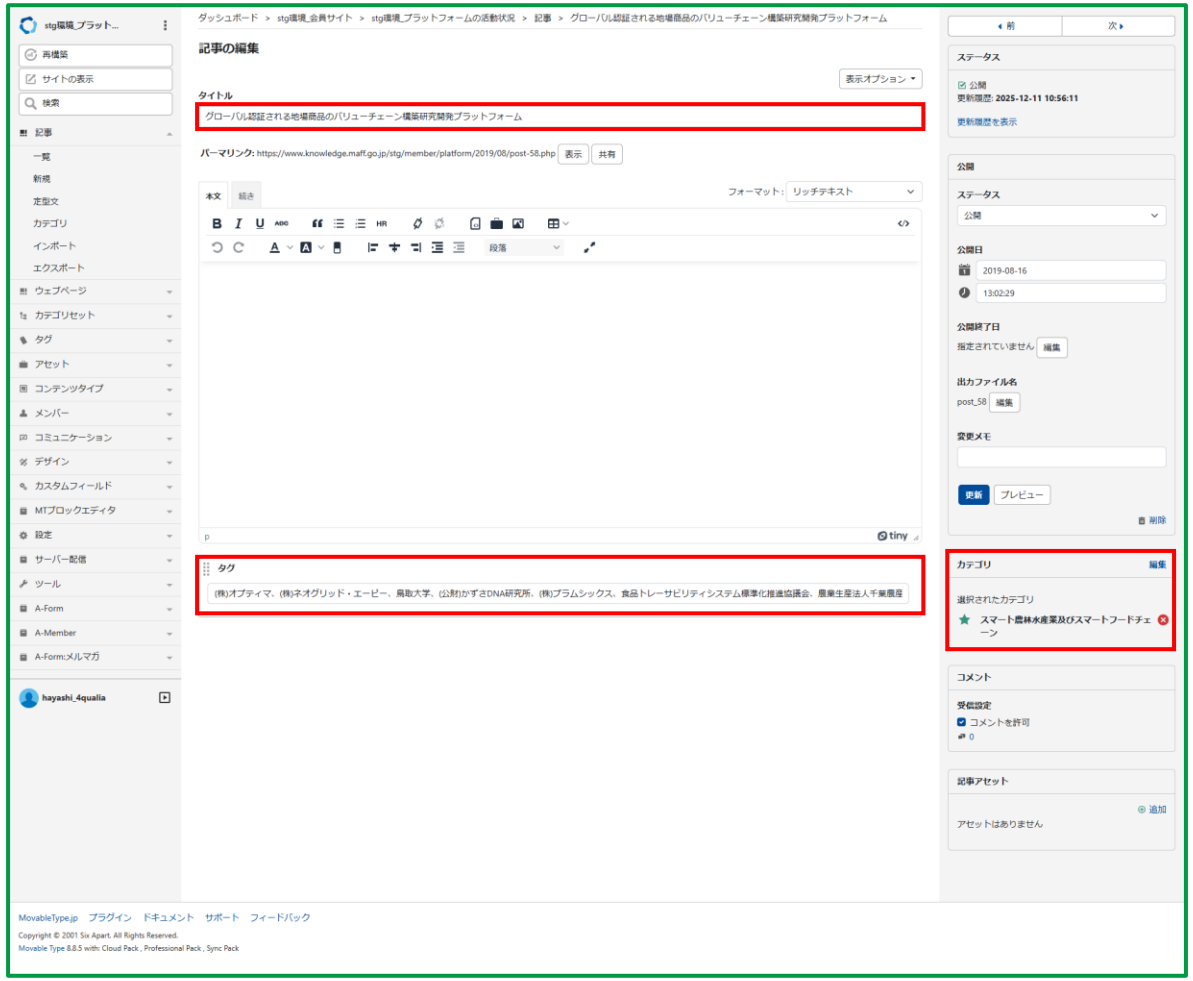
■管理画面｜記事一覧



ログイン後の画面説明

会員登録時に入力済の情報については、入力フィールドに情報が記入されています。
内容に相違がないかご確認いただき、必要に応じて追記修正をお願いいたします。

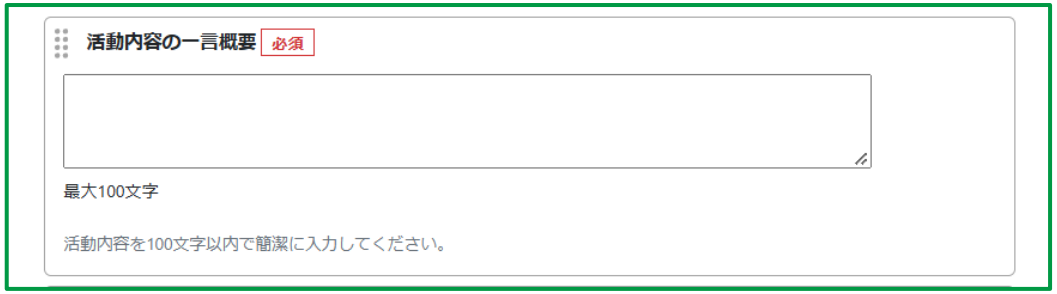
■管理画面｜記事編集



入力項目について

新規作成画面の入力フィールドには「必須項目」「任意項目」がございます。
必須項目には必須マークがついております。

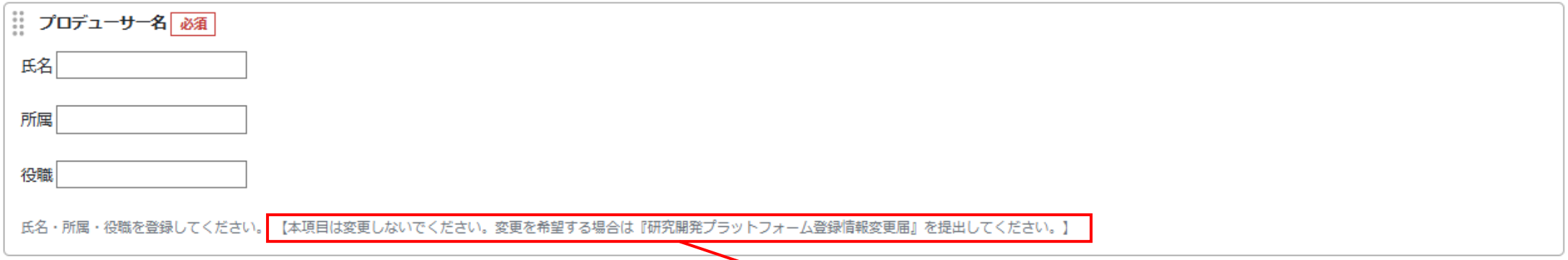
■必須項目



別途届出が必要な項目の更新

変更届が必要な項目の記事更新は行わないでください。
画面上に「本項目を変更しないでください。変更を希望する場合は変更届を提出してください。」の文言が記載されている項目が対象です。
また、記事の削除も行わないようお願いいたします。

■管理画面

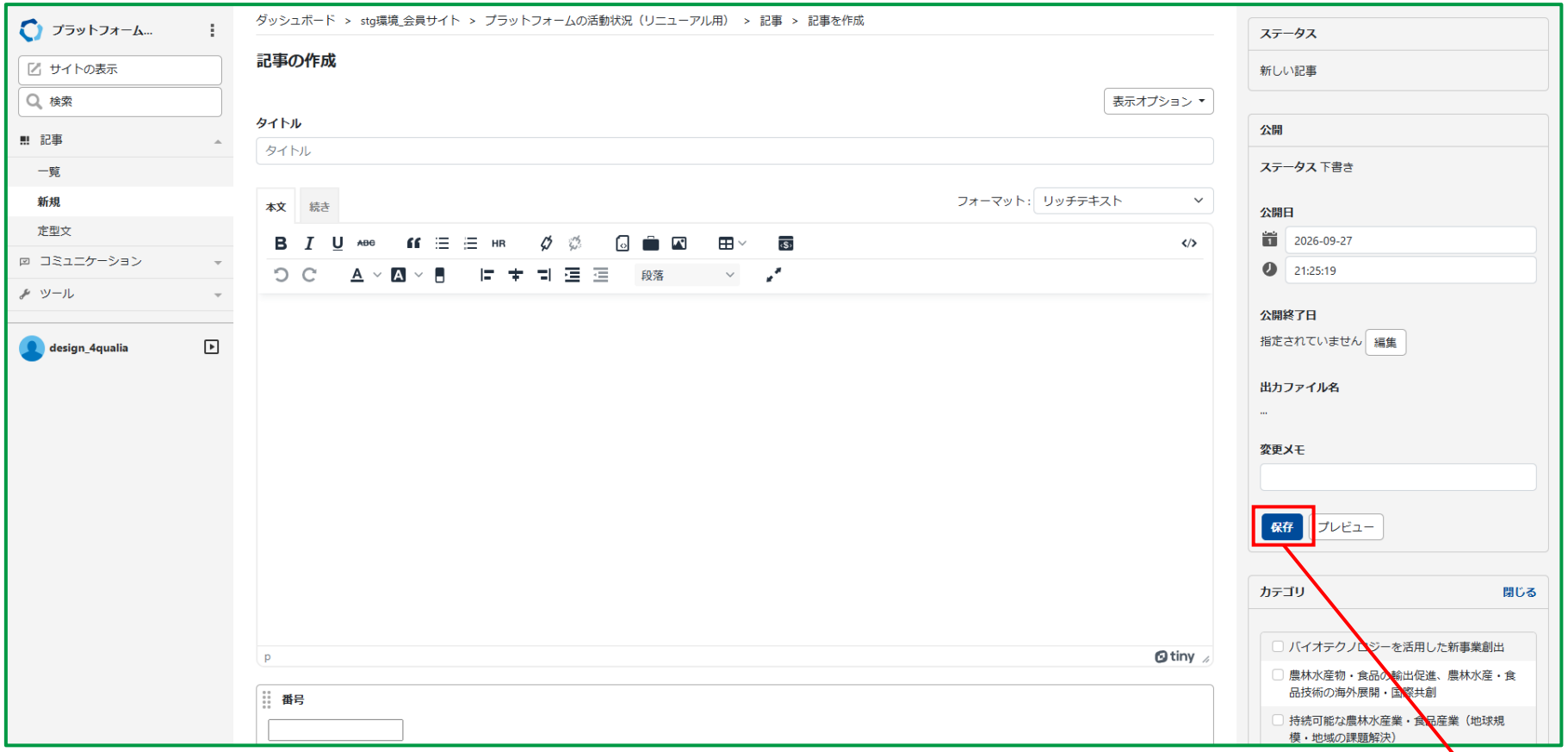


こちらの文言が明記されている項目は
変更届の提出が必要です。

記事の保存

必須項目をすべて入力いただき「保存」ボタンを押すと記事の内容が保存されます。

■管理画面



必須項目を全て入力後、保存してください。

01

管理画面へのログイン方法

プラットフォーム情報の入力について

下記URLよりアクセス後、2段階の認証でログインいただけます。

https://fkiimaff-gt6t.movabletype.biz/mt/admin

ユーザー名、パスワードは別途メールにてお送りしております。

（件名：【重要】「知」の集積と活用の場 ユーザー名とPWのお知らせ）

アクセスすると認証画面が表示されますので、案内メール記載の認証用ユーザー名・パスワードを入力し、「ログイン」ボタンを押下してください。

認証されると管理画面のログイン情報入力ページが表示されます。

管理画面からログインする

ログインURLよりアクセス後、下記画面が表示されます。
ユーザー名・パスワードをご入力いただき「サインイン」ボタンを押下すると管理画面へログインいただけます。

ご案内されたユーザー名を入力する

ご案内されたパスワードを入力する

チェックを入れていただくと、
一旦管理画面を閉じても
サインイン状態を保持し続けます。

ユーザー名・パスワードを入力後、
押下する

管理画面のパスワード再設定

パスワードを忘れてしまった場合、下記手順にてご自身での再設定が可能です。
もし、アカウントがロックされてしまった場合は事務局までお問い合わせください。

1. ログイン画面で [パスワードをお忘れですか？] リンクを押下します。
2. ご登録のメールアドレスを入力し「リセット」ボタンを押下します。
3. パスワード再設定を行うページの URL を含むメールが、先程入力したメールアドレスに届きます。
   メールに記載された URL にアクセスし、パスワードを再設定します。

押下すると「パスワードのリセット」の画面へ遷移する

ご登録のメールアドレスを入力する

メールアドレス入力後、押下する

メールアドレス宛に
パスワード再設定URLを含むメールが
届きますので、再設定URLからアクセス
しパスワード設定します。

02

プラットフォーム情報の入力項目

ご入力いただく設問区分

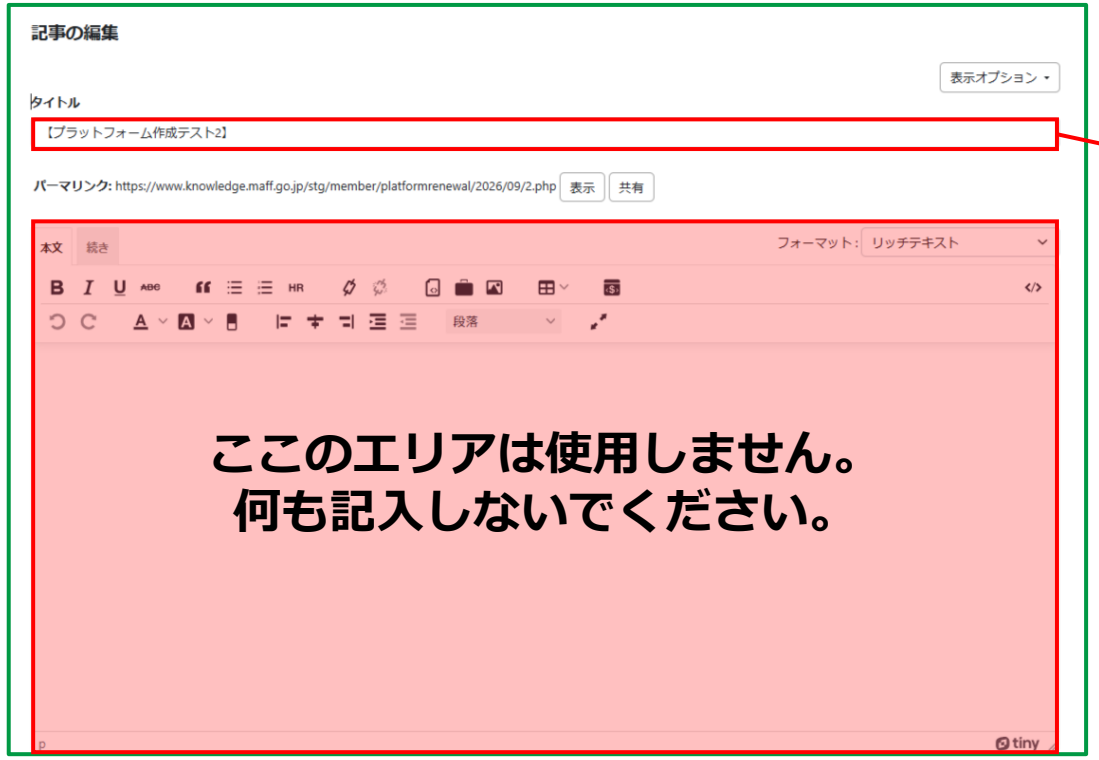
項目名	入力区分	注意事項
研究開発プラットフォーム名	必須	登録内容を確認してください。変更を希望する場合は、「研究開発プラットフォーム登録情報変更届」を提出してください。
活動内容の一言概要	必須	活動内容を100文字以内で簡潔に入力してください。
目指す未来・社会像	任意	活動を通じて実現したい未来・社会像を入力してください。
海外展開	任意	海外展開の意向を選択してください。「あり」または「検討中」の場合は、対象の地域・国を入力してください。
平成28年度～令和7年度活動報告書	任意	提出済みの活動報告書は自動で反映されるため、入力・アップロードは不要です。
設立年月日	必須	本項目は入力しないでください。事務局が届出内容に基づき入力します。変更を希望する場合は、「研究開発プラットフォーム登録情報変更届」を提出してください。
他分野参画状況	任意	参画している分野を選択してください。複数選択できます。
プロデューサーの所属・役職	任意	本項目は入力しないでください。事務局が届出内容に基づき入力します。変更を希望する場合は、「研究開発プラットフォーム登録情報変更届」を提出してください。
解決を目指す社会課題	必須	該当する社会課題を選択し、具体的な内容を入力してください。複数選択できます。
技術成熟度（TRL）	必須	技術・シーズのTRLを選択してください。
想定する導入先・利用場面	任意	想定する導入先・利用場面を入力してください。複数記入できます。
活用したい外部リソース	必須	現在必要としている外部リソースを選択してください。複数選択できます。
希望する協業先	必須	希望する協業先を選択してください。複数選択できます。
希望する連携形態	必須	希望する連携形態を選択してください。複数選択できます。
PF連絡先	任意	公開可能な問い合わせ窓口を入力してください。
広報・メディア情報	任意	公開可能なWebページや動画等を登録してください。

ご入力いただく設問区分

項目名	入力区分	注意事項
外部連携可能な技術・シーズ	必須	外部連携が可能な技術・シーズを登録してください。
主な研究・事業テーマ	必須	現在の主な研究・事業テーマを登録してください。
プロデューサー名	任意	本項目は入力しないでください。事務局が届出内容に基づき入力します。変更を希望する場合は、「研究開発プラットフォーム登録情報変更届」を提出してください。
管理運営機関・担当者	任意	本項目は入力しないでください。事務局が届出内容に基づき入力します。変更を希望する場合は、「研究開発プラットフォーム登録情報変更届」を提出してください。
構成メンバー	任意	本項目は入力しないでください。事務局が届出内容に基づき入力します。変更を希望する場合は、「研究開発プラットフォーム登録情報変更届」を提出してください。
現在の活動状況・社会実装フェーズ	必須	各技術・シーズの現在の段階を選択してください。
知財保有状況	任意	各技術・シーズの知財保有状況と外部連携可否を選択してください。
資金調達ニーズ	任意	資金調達の意向を選択してください。
資金調達ニーズ（用途・金額）	任意	資金調達ニーズが「あり」または「検討中」の場合に、用途と金額帯を入力してください。
2030年度末に目指す市場規	必須	2030年度末に目指す市場規模、基準年、算定根拠および公開範囲を入力してください。
関連キーワード・タグ	任意	関連するキーワード・タグを最大10件まで登録できます。
主要技術分野	必須	主要な技術分野を選択してください。複数選択できます。
他の研究開発PFとの連携	任意	連携状況を選択してください。「あり」または「検討中」の場合は、連携内容の概要を入力してください。
PF構成員募集	必須	募集状況と、希望する構成員像を入力してください。

入力項目

■管理画面

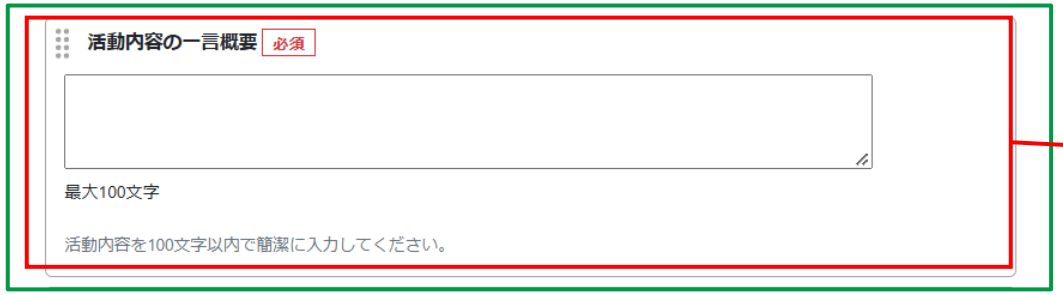


【タイトル：研究開発プラットフォーム名】

登録内容を確認してください。変更を希望する場合は、「研究開発プラットフォーム登録情報変更届」を提出してください。

入力項目

■管理画面

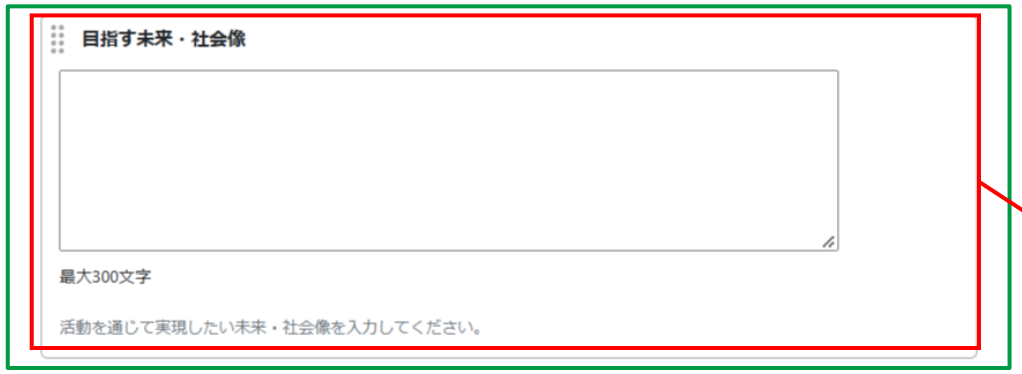


【活動内容の一言概要】
活動内容を100文字以内で簡潔に入力してください。

≪記入例≫
農業生産者、農業関連企業、研究機関が連携し、センシング技術や農業データを活用した高度な栽培管理手法の開発・実証を通じて、生産性向上と持続可能な農業の実現を目指している。

入力項目

■管理画面



【目指す未来・社会像】
活動を通じて実現したい未来・社会像を入力してください。

≪記入例≫
本プラットフォームは、AI、IoT、ロボティクスなどの先端技術を活用し、誰もが持続的かつ効率的に農業に取り組める社会の実現を目指す。生産者、企業、大学、研究機関、行政が分野や地域の垣根を越えて連携し、農業現場の課題解決と新たな価値創出を推進することで、食料の安定供給と地域農業の競争力強化に貢献する。また、データに基づく栽培管理や省力化技術の普及を通じて、担い手不足や高齢化といった課題に対応し、次世代へ受け継がれる持続可能な農業生産システムの構築を目指す。さらに、研究成果の社会実装を加速し、農業DXによる豊かで活力ある地域社会の創出に貢献する。

入力項目

■管理画面

【海外展開】

海外展開の意向を選択してください。「あり」「検討中」を選択した場合は追加で入力欄が表示されますので、対象の地域・国を記載してください。

入力項目

■管理画面

【平成28年度～令和7年度活動報告書】

これまでにご提出いただいている活動報告書につきましては、自動で反映されます。

入力項目

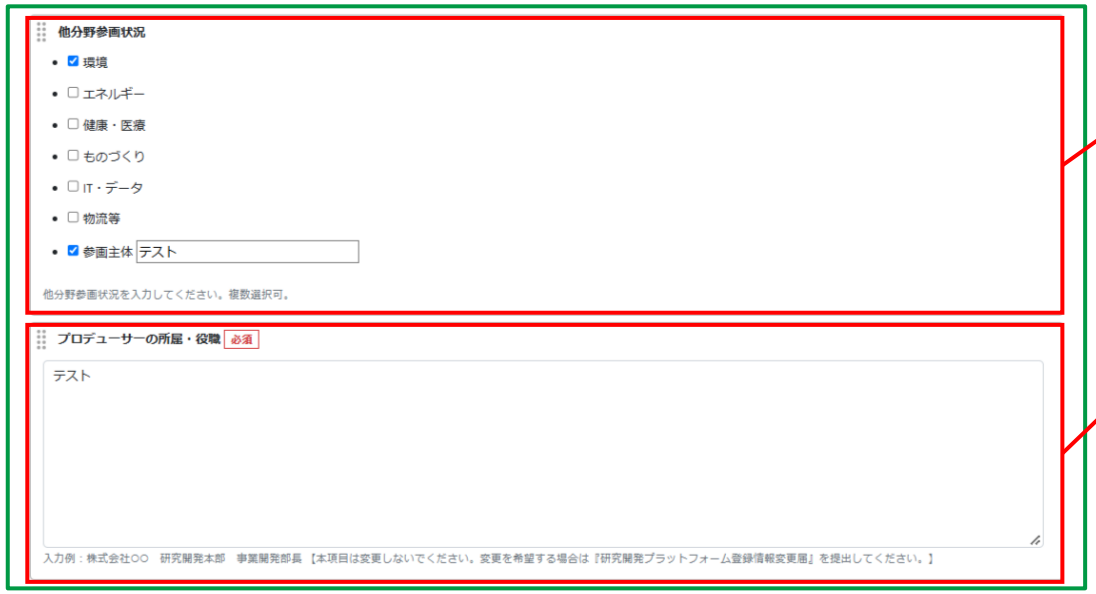
■管理画面

【設立年月日】

「本項目は入力しないでください。事務局が届出で提出されている内容をもとに入力いたします。今後表示される内容の変更を希望する場合は『研究開発プラットフォーム登録情報変更届』を提出してください。」

入力項目

■管理画面



【他分野参画状況】
他分野参画状況を入力してください。複数選択可。

≪記入例≫
✓ものづくり
✓IT・データ

【プロデューサーの所属・役職】

「本項目は入力しないでください。事務局が届出で提出されている内容をもとに入力いたします。今後表示される内容の変更を希望する場合は『研究開発プラットフォーム登録情報変更届』を提出してください。」

入力項目

■管理画面

【解決を目指す社会課題】
解決を目指す社会課題を選択し、具体的な内容を入力してください。複数選択可。

≪記入例≫
✓生産性向上
　AIやIoTを活用し、農作業の効率化と収量・品質の向上を実現する。
✓食料安全保障の強化
　安定した農業生産体制を構築し、持続的な食料供給に貢献する。
✓地域活性化
　産学官連携を通じて地域農業の競争力向上と人材育成を促進する。

入力項目

■管理画面

【技術成熟度（TRL）】
技術成熟度（TRL）をプルダウンより選択してください。

【想定する導入先・利用場面】
想定する導入先・利用場面を選択し、記入してください。複数記入可。

≪記入例≫
✓導入主体
　農業法人、生産者団体、JA、自治体、農業支援企業などスマート農業の導入を目指す組織。
✓利用場面
　生育管理、病害虫予測、収量予測、営農計画の策定など農業経営の効率化に活用。

※TRLについてはP50補足説明がございます

入力項目

■管理画面

【活用したい外部リソース】

現在必要としている外部リソースを選択してください。複数選択可。

【希望する協業先】

希望する協業先を選択してください。複数選択可。

入力項目

■管理画面

【希望する連携形態】

希望する連携形態をすべて選択してください。複数選択可。

入力項目

■管理画面

【PF連絡先】
公開可能なプラットフォームの問い合わせ窓口を入力してください。
複数ある場合は「PF連絡先を追加」ボタンより入力フィールドを追加いただけます。

«記入例»
窓口種別
メール

URL・組織メール
〇〇〇.▽▽▽@yahoo.co.jp

電話
090-0000-0000

入力項目

■管理画面

【広報・メディア情報】
公開可能なWebページや動画等を登録してください。

«記入例»
種別
Webページ

タイトル
「スマート農業支援システムの実証開始 生産性向上に期待」- ●●ニュース

URL
https://news.XXXXXX.com/articles/‥‥

公開日
2026-05-15

入力項目

■管理画面

【外部連携可能な技術・シーズ】
外部連携が可能な技術・シーズを登録してください。
複数ある場合は「外部連携可能な技術・シーズを追加」ボタンより入力フィールドを追加いただけます。

«記入例»
名称
AI・IoTを活用したスマート農業支援システム

概要
農地に設置したIoTセンサーやドローン、気象データなどから収集した情報をAIで分析し、作物の生育状況や病害虫リスクの予測、最適な栽培管理を支援するシステム。

連携希望内容
・実証フィールドの提供
・農業データの収集
・分析に関する共同研究センサー、ドローン、農機メーカーとの技術連携

画像
「アセットを選択」ボタンを押下し、 アップロードするファイルを選択または画面にドラッグ＆ドロップしてください。
アップされると「挿入」ボタンが青くなりますので、ボタン押下していただくと画面に挿入されます。

入力項目

■管理画面

【主な研究・事業テーマ】
現在の主な研究・事業テーマを登録してください。
複数ある場合は「主な研究・事業テーマを追加」ボタンより入力フィールドを追加いただけます。

«記入例»
テーマ名
AI・センシング技術を活用した次世代スマート農業の実証と普及

概要
AI、IoTセンサー、ドローンなどの先端技術を活用し、農作物の生育状況や栽培環境を可視化することで、生産性向上と省力化を実現する。生産者、企業、大学、研究機関が連携し、現場実証を通じて技術の社会実装を推進する。

期間
2024年4月～2028年3月

画像
「アセットを選択」ボタンを押下し、 アップロードするファイルを選択または画面にドラッグ＆ドロップしてください。
アップされると「挿入」ボタンが青くなりますので、ボタン押下していただくと画面に挿入されます。

入力項目

■管理画面

【プロデューサー名】

「本項目は入力しないでください。事務局が届出で提出されている内容をもとに入力いたします。今後表示される内容の変更を希望する場合は『研究開発プラットフォーム登録情報変更届』を提出してください。」

入力項目

■管理画面

【管理運営機関・担当者】

「本項目は入力しないでください。事務局が届出で提出されている内容をもとに入力いたします。今後表示される内容の変更を希望する場合は『研究開発プラットフォーム登録情報変更届』を提出してください。」

入力項目

■管理画面

【構成メンバー】

「本項目は入力しないでください。事務局が届出で提出されている内容をもとに入力いたします。今後表示される内容の変更を希望する場合は『研究開発プラットフォーム登録情報変更届』を提出してください。」

入力項目

■管理画面

【現在の活動状況・社会実装フェーズ】

各技術・シーズの現在の段階を選択してください。
複数ある場合は「現在の活動状況・社会実装フェーズを追加」ボタンより入力フィールドを追加いただけます。

入力項目

■管理画面

【知財保有状況】
知財保有状況を記入してください。
複数ある場合は「知財保有状況を追加」ボタンより入力フィールドを追加いただけます。

«記入例»
シーズ名
AIを活用した作物生育予測システム

入力項目

■管理画面

【資金調達ニーズ】
資金調達ニーズを選択してください。

«記入例»
あり

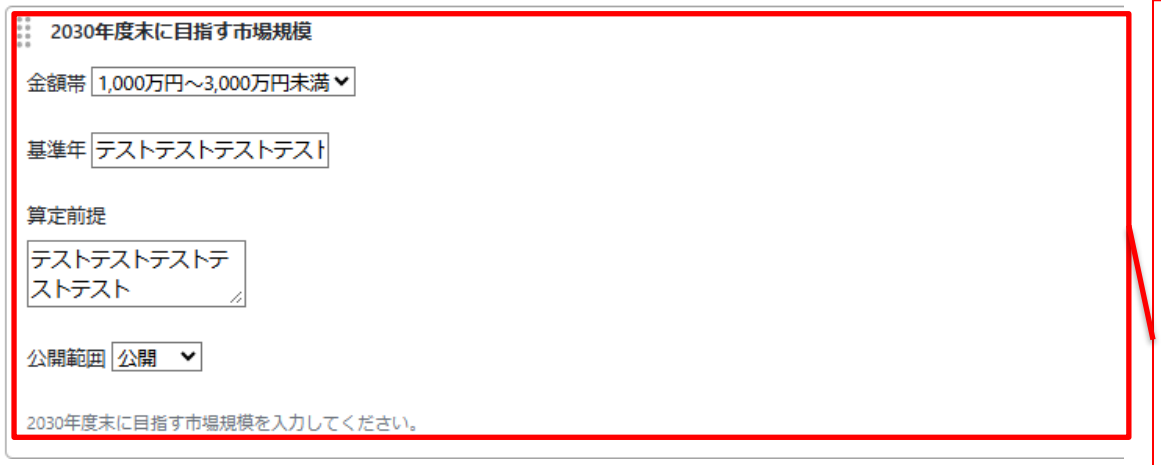
【資金調達ニーズ（用途・金額）】
上記設問で資金調達ニーズが「あり」「検討中」の場合は、用途・金額帯を記入してください。

«記入例»
用途
AI・IoTを活用した営農支援システムの機能開発・高度化

金額帯
1,000万円～3,000万円未満

入力項目

■管理画面



【2030年度末に目指す市場規模】
第3期末時点で目指す市場規模について、金額帯・基準年・算定根拠・公開範囲を入力してください。

«記入例»
■金額帯
1,000万円～3,000万円未満

■基準年
2030年

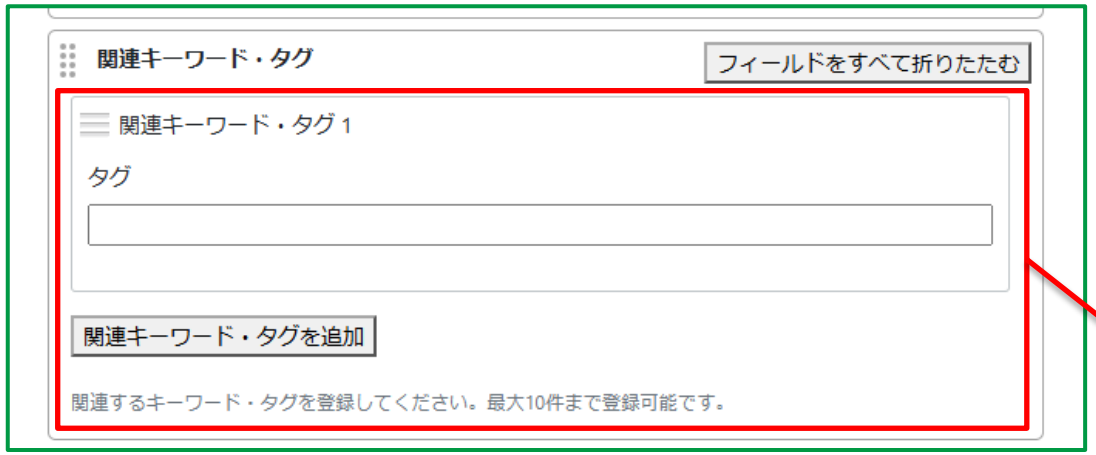
■算定根拠
国内スマート農業市場の予測値をもとに、営農支援システムの想定導入件数×年間利用料により算出

■公開範囲
公開

※市場規模の算定方法についてはP51補足説明がございます

入力項目

■管理画面

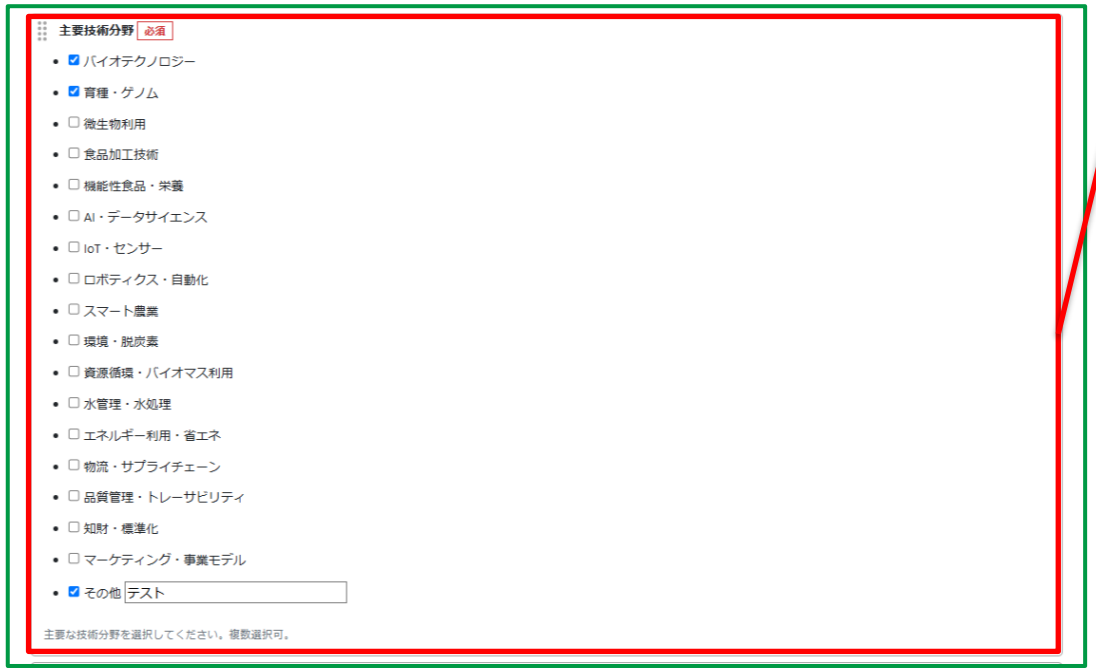


【関連キーワード・タグ】
関連するキーワード・タグをご自身で記入し、登録してください。
「関連キーワード・タグを追加」ボタンより最大10件入力フィールドを追加いただけます。

«記入例»
スマート農業
AI・人工知能
IoT・センサー
農業DX
データ駆動型農業
ドローン活用
生育予測
病害虫予測
自動化・省力化
営農支援システム

入力項目

■管理画面

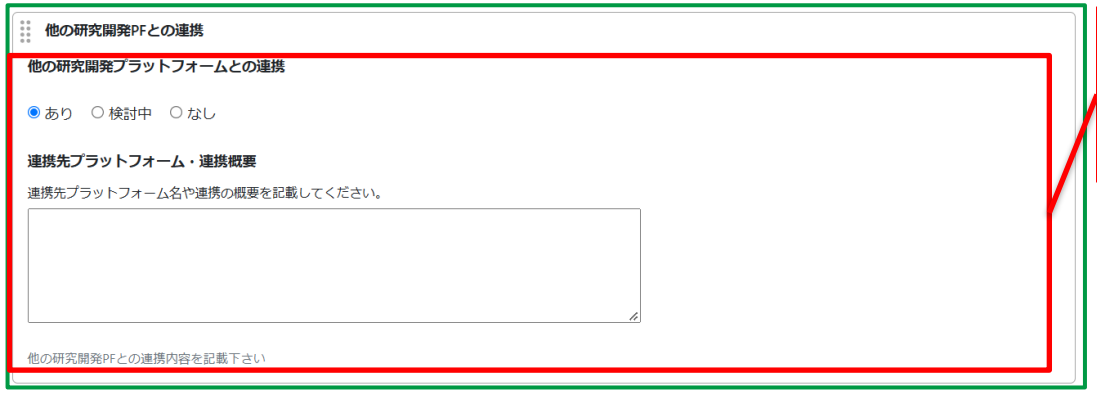


【主要技術分野】

主要な技術分野を選択してください。複数選択可。

入力項目

■管理画面



【他の研究開発PFとの連携】
他の研究開発プラットフォームとの連携状況を選択してください。
「あり」または「検討中」を選択した場合、概要をご記載ください。

入力項目

■管理画面

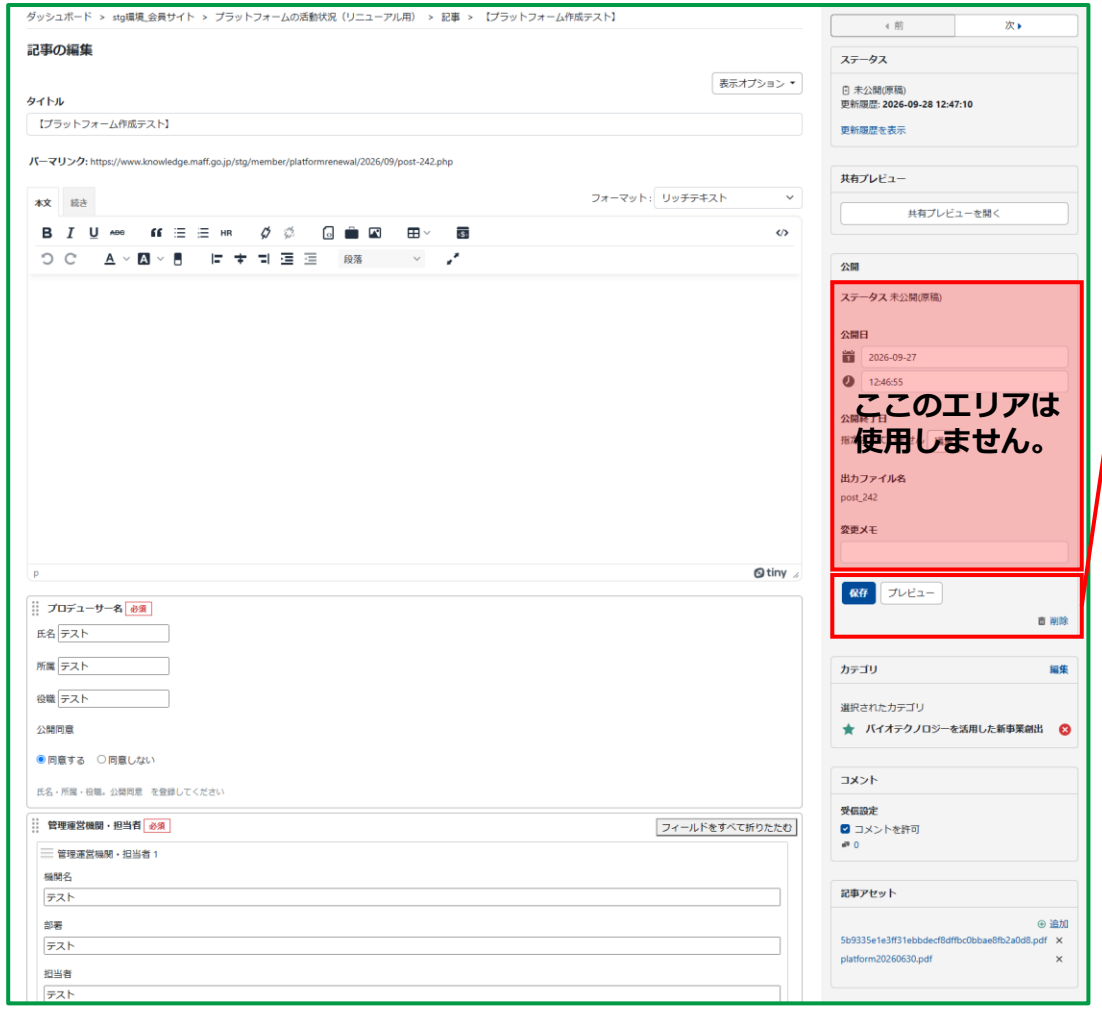
【PF構成員募集】
どのような方に参画・お声がけいただきたいか（希望する構成員像）をご記入ください。

«記入例»
条件付き募集中
スマート農業の実証・共同研究に参画可能な企業、農業法人、研究機関等を募集。

03

公開前の確認・送信

■管理画面

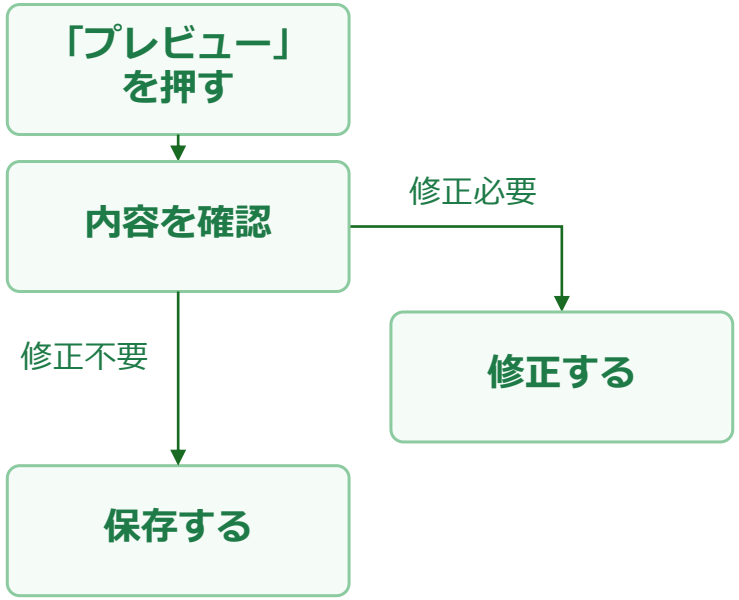


保存ボタン
記事を保存します。

プレビューボタン
公開前に記事を確認します。

削除ボタン
削除は行なわないでください。

【公開までの流れ】



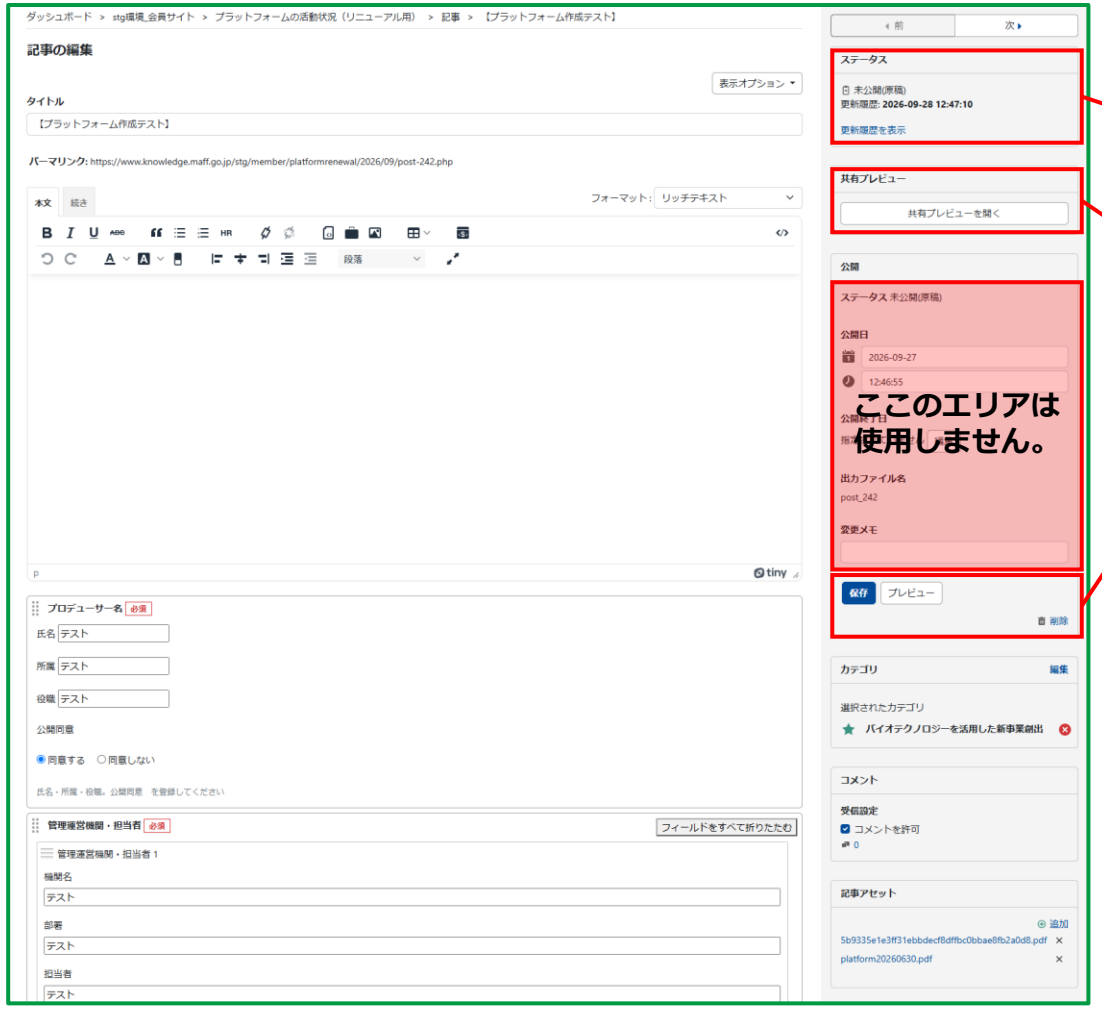
事務局で確認後に公開いたします

その他①

サイドバーの項目について

サイドバーの項目について

■管理画面



【ステータス】
記事の状態を表示しています。

【共有プレビュー】
公開前の記事の状態を確認します。

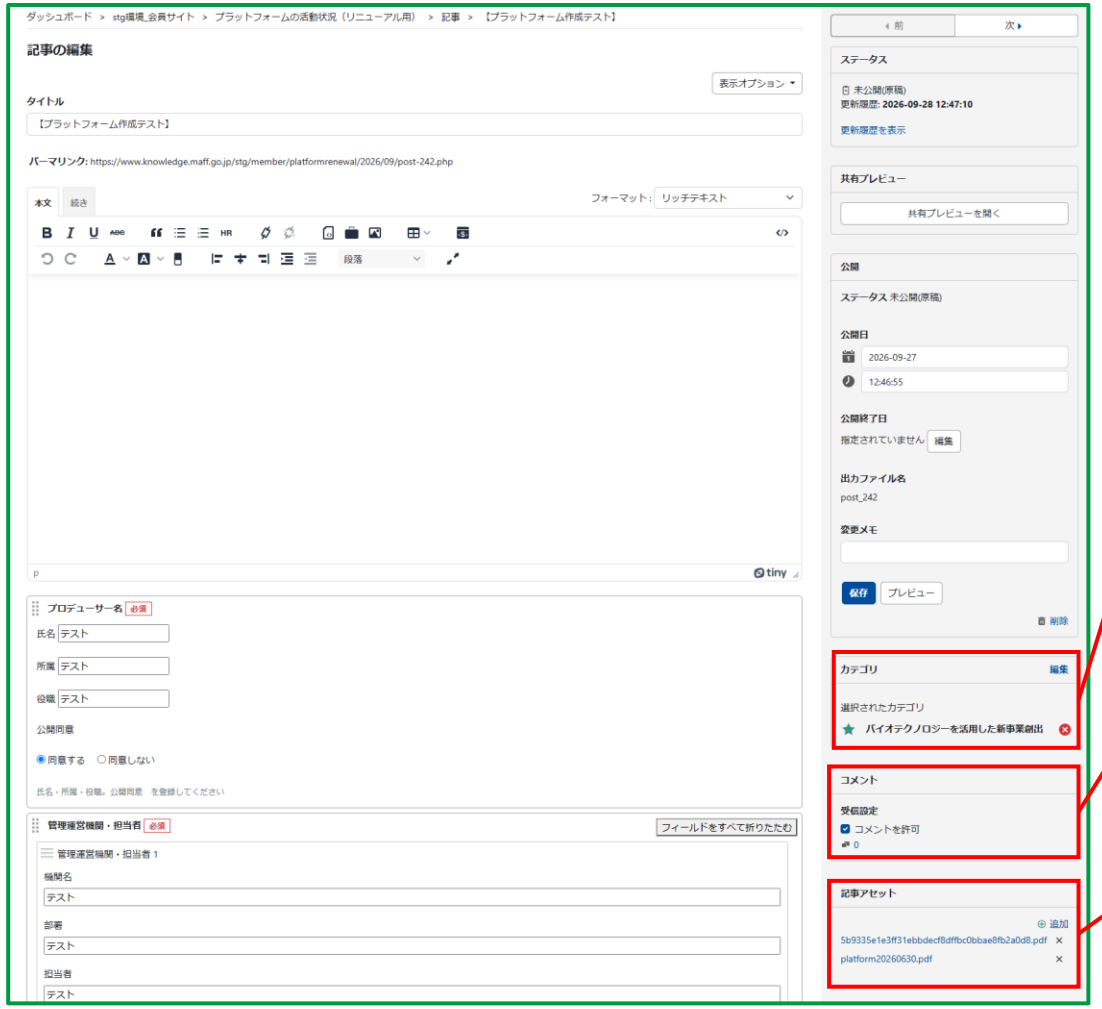
【公開】
保存ボタン
記事を保存します。

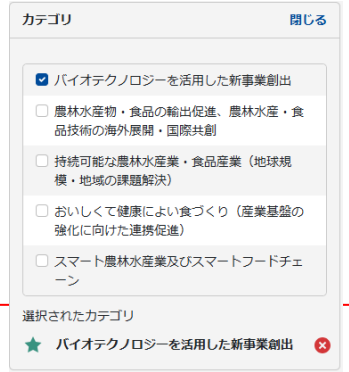
プレビューボタン
公開前に記事を確認します。

削除ボタン
削除は行なわないでください。

サイドバーの項目について

■管理画面





【カテゴリ】
研究テーマのカテゴリが選択されています。
カテゴリが異なる場合は「編集」ボタンより選択し直してください。

【コメント】
コメントの許可を設定します。

【記事アセット】
アップロードデータを設定します。

その他②

補足説明（TRL, 市場規模）

補足1:TRLの説明

TRLとは？

- TRL（Technology Readiness Level：技術成熟度レベル）とは、技術・製品・サービスが、研究・実証・事業化のどの段階にあるかを示す指標です。
- 第3期ロードマップでは「ステージ前進した件数（TRLベース）」がKPIとして設定されているため、各PFの現在地と進捗を把握し、段階に応じた支援につなげることを目的として回答をお願いします。

回答方法

- 登録する技術･製品･サービスごとに、現時点で最も近いTRLを1つ選択してください。
- 複数の技術･製品･サービスがある場合は、それぞれのTRLを回答してください。

レベルの判断が難しい場合：実施済みの取組を回答いただき、事務局が確認します。

	研究フェーズ		製品開発フェーズ			実証フェーズ		事業化フェーズ	
	TRL 1 基礎研究	**TRL 2** 仮説	**TRL 3** 個別技術の検証	**TRL 4** 研究室レベルでの初期テスト	**TRL 5** 実際の使用条件を想定したテスト	**TRL 6** 実証	**TRL 7** 量産方法・供給体制の検討	**TRL 8** 小規模な生産設備での提供	**TRL 9** 継続的・安定的な提供
TRLモデル[1]	**基礎的な原理・現象･知識が発見**された状態	原理を基に、**実用的な仮説**が立てられた状態	個別技術の**実現可能性が検証**された状態	**研究室環境で基本的な機能・性能が確認**された状態	**想定使用環境で機能・性能が確認**された状態	**実使用環境でシステムの機能・性能が実証**された状態	**量産方法・品質基準・供給体制の計画**が策定できる状態	**顧客ニーズを満たす製品・サービス**を提供できる状態	製品・サービスを**継続的・安定的に**提供できる状態
判定例									
技術	有用な微生物を発見	微生物を活用した栽培方法を構想	室内試験で栽培効果を確認	小規模な栽培試験を実施	試験圃場で効果を確認	実際の圃場で効果を実証	複数地域で効果の再現性を確認	一部の生産者へ技術を導入	複数地域へ技術を展開
製品	新たな食品成分を発見	新成分を活用した食品を構想	試作品で基本性能を確認	研究室内で試作品を評価	模擬生産設備で製造方法を確認	実際の製造設備で性能を実証	量産方法と品質基準を確立	小規模に生産・試験販売	製品を継続的に生産・販売
ｻｰﾋﾞｽ	診断に使える指標を発見	センサーを活用した営農支援を構想	小規模な試行で提供方法を確認	試験用システムの機能を評価	想定利用者による試験利用を実施	実際の利用者や地域で実証	提供手順と運用体制を確立	限定した地域や利用者へ提供	サービスを継続的に提供

出展 1)内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局『戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期の社会実装に向けた戦略の作成及び社会実装に係る指標の活用について』2023年2月15日を参考に作成

補足2:2030年度時点での市場規模・経済効果の説明

何を算定する？

- 技術・製品・サービスごとに、**2030年度（2030年4月～2031年3月）**の市場規模または経済効果を算定してください。
- 金額は税抜とし、**「万円／年」単位**で記載してください。

算定の考え方

- 第3期ロードマップに基づき、各PFの波及効果を把握し、今後の支援の検討に活用します。
- 市場規模：2030年度末に市場全体で見込まれる販売数量、利用件数、導入面積等に単価を乗じて算定してください。
- 経済効果：2030年度末に見込まれる導入件数、対象面積等に、1件当たりの売上増加額、コスト削減額等を乗じて算定してください。

注意事項

- 実績値ではなく、2030年度末の目標値（推計値）年間値を記載してください。
- 累計値や2030年度以前の実績は含めず、2030年度末の年間値を記載してください。
- **算定方法1～6のいずれを選択した場合も、算定式を記載してください。**
- **算定方法1～6に該当しない場合は、独自の算定方法と算定式を記載してください。**

No.	算定方法の例	基本計算式（2030年度単年）	主な適用場面	計算例
1	**製品・資材市場型 (市場規模)**	**市場全体の販売数量 × 平均販売単価**	新品種、食品・飼料、肥料・堆肥、農業資材、検査キット、農業機械・装置	500台／年× 20万円／台 = 10,000万円／年
2	**サービス・システム市場型 (市場規模)**	**継続利用件数 × 年間利用料 ＋ 新規導入件数 × 初期導入費**	営農支援システム、分析・診断、ドローン作業受託、クラウド、設備保守	200件 × 20万円／件・年 ＋ 20件／年× 50万円／件 = 5,000万円／年
3	**面積・施設市場型 (市場規模)**	**対象面積・施設数 × 想定導入率 × 単位当たり年間売上**	新品種・栽培技術の普及、肥料・資材の導入、圃場・畜舎・養殖場への設備導入	1,000ha × 20% × 5万円／ha・年 = 1,000万円／年
4	**知財・技術移転市場型 (市場規模)**	**契約件数 × 年間契約料＊** **＊ロイヤリティ等を含む**	特許・品種の許諾、栽培・飼育プロトコル、加工・製造技術の移転	5件 × 100万円／件・年 = 500万円／年
5	**売上増加効果型 (経済効果)**	**導入件数・対象面積 × 1件・単位当たり年間売上増加額**	収量・生産量の増加、品質向上、販売単価向上、未利用資源の商品化	100経営体 × 50万円／経営体・年 = 5,000万円／年
6	**コスト削減効果型 (経済効果)**	**導入件数・対象面積 × 1件・単位当たり年間コスト削減額**	作業時間削減、肥料・農薬・飼料削減、水・エネルギー削減、食品ロス削減	50経営体 × 40万円／経営体・年 = 2,000万円／年